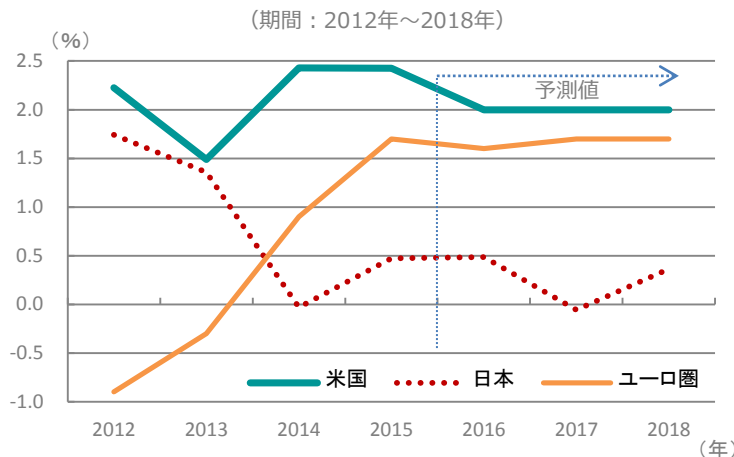


堅調な米国景気とFRBの慎重な姿勢が市場心理の悪化を和らげるとみています。

FOMC声明について

FRB(米連邦準備制度理事会)は6月15日、FOMC(米連邦公開市場委員会)後の声明で、(i) 前回FOMCで下方修正した米国景気の現状認識を上方修正した上で、FRBが目標とする経済成長率2.0%の『巡航速度』での景気拡大が2016~2018年にかけて続くとの見通し(図表1参照)を示しました。同時に、(ii) 政策金利引き上げ(利上げ)の最終的な到達目標となる水準を一段と引き下げ(図表2参照)、慎重に利上げを進めるFRBの姿勢を改めて市場に印象づけました(「コラム」参照)。

主要先進国の経済成長率 図表1



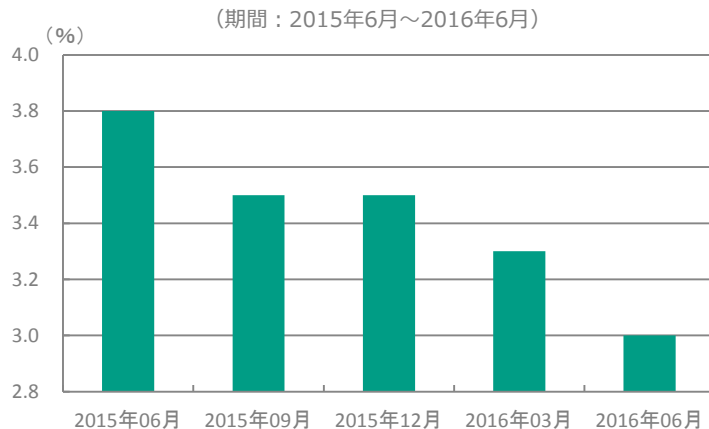
出所：米国はIMFおよびFRB見通し、日本はIMF、ユーロ圏はEurostatおよびECB見通しをもとに明治安田アセットマネジメント作成

市場動向について

■ 昨年の夏、今年1~2月には、米国景気拡大の持続性への懸念に新興国景気への不安が加わり、世界的な株安連鎖となり市場の不安心理が高まりました。しかしFRBの慎重な利上げ姿勢等を背景に米国株価が持ち直すと市場の不安は和らぎました。

■ このところ英国の欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票(6月23日)等を控え、市場のボラティリティ(変動性)は高まりやすい地合いです。米国景気が着実に拡大を続けていることに加え、FRBが慎重な利上げ姿勢で景気の腰折れを回避しようとしていることは、市場の不安心理を和らげる大きな要因になると考えられます。例えば為替面であれば、FRBの慎重姿勢は過度な円安を抑える要因ではありますが、逃避的な円買い(円高要因)については軽減される一因になると期待されます。

FRBが到達目標とする政策金利水準 図表2



※ 横軸は政策金利見通しが示されたFOMC開催時点  
出所：FRB

《コラム》米国景気とFRBの慎重姿勢

- (i) 米国景気は、前回4月FOMCの「減速(slowed)」との判断を、今回「持ち直した(picked up)」と判断しました。その根拠は、勢いがなくなっていた、GDP(国内総生産)の約7割を占める個人消費が持ち直したことや、景気にマイナスに作用している純輸出(=輸出-輸入)の不振が和らいだことをFRBは挙げています。
- (ii) 政策金利の目標水準は、かつて3.8%でしたが、昨年9月に3.5%へ、今年3月には3.3%へそれぞれ引き下げた後、今回さらに3.0%へ一段と引き下げました。

担当：チーフストラテジスト 杉山 修司  
東京大学経済学部卒、ロンドン大学LSE修士  
日本銀行為替課ほか、格付会社S&P、ドイツ・アセット・マネジメントを経て、2016年から現職(業界経験年数25年)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。